



東洋大学工学部 機械工学科同窓会会報

第7号
平成21年
5月25日発行

川越キャンパス 2学部体制スタート

会報5号でお知らせしましたように、工学部が理工学部と総合情報学部の2学部にも再編され、平成21年4月よりスタートしました。両学部とも川越キャンパスにて教育・研究を行います。スタート前のパンフレット等から解説を引用しました。

工学と理学の融合により「21世紀型ものづくり」のリーダーを育成

平成21年4月より、産官学が協働する「21世紀型ものづくり」の教育研究を担い、ものづくり技術を高度化させるために、新生「理工学部」を構想しています。「工学」と「理学」を融合させた新たな教育体制は、「機械工学科」「生体医工学科」「電気電子情報工学科」「応用化学科」「都市環境デザイン学科」「建築学科」の6学科体制となります。

このうち、「生体医工学科」は、医療分野において医学・工学の両方の専門知識をもち合わせた人材が求められていることを受けて、新しく設置される学科です。生物、生体の構造と機能の解析をもとに、質の高い医療知識を身につけ、疾病の早期発見と早期治療に役立つ、高機能、高性能な医療機器・装置の開発・設計や、導入・仕様に対応できる資質を身につけた人材、医学・工学の新たな学際的、融合的発展に貢献できる生体医工学の専門家の育成を目指した、本学の新しい取り組みです。

さらに、学科横断型教育プログラムとして、「バイオ・ナノサイエンス融合コース」、「ロボティクスコース」「地域学コース」を設けることを予定し、より幅広い学習の機会を提供します。

理工学部パンフレットより

機械工学は、あらゆる技術分野からそのエッセンスを吸収し、あらゆる分野に対して影響を及ぼす、社会の発展に欠かすことのできない学問です。「人間とロボットの共生」「環境エネルギー問題」「ナノ・マイクロテクノロジー」など、21世紀の科学・技術においても、機械工学が果たす役割に期待が寄せられています。

機械工学科では、「コスト」「効率」「最適化」などを重視するエンジニアリング（工学）的なセンスを養うとともに、「原理は何か」「それは何故か」など、本質を重視するサイエンス（科学）的なセンスを並行して磨くことができるような諸科目を配し、ソフト・ハードの両面から、未来の日本を担う「21世紀型の実践的エンジニア」を育成します

機械工学科パンフレットより

総合情報学部について

教育目標として、文理の枠を越え、社会・経済・文化・芸術・環境・心理などの多様な分野で情報を的確に収集・編集・表現し、ICT（情報通信技術）が促す知識情報社会を先導する人材、「第一級の情報の使い手」を育成することを目標とします。

ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）が社会の仕組みを支える基盤となった21世紀、これをいかに活用できるかが、人々の暮らしと経済的な発展に大きな影響を及ぼすと考えられています。

「総合情報学部」は、こうした社会の要請に応じて、幅広い産業分野や人間的な営みに情報通信技術を的確に応用できる新しい情報の学問分野を開拓していく学部です。産業、経済、文化、芸術、環境、心理など、幅広い知の分野と、情報との関係を正しく理解し、社会のさまざまな分野で、創造的に情報の価値を高める人材を育てます。

当学部は「総合情報学科」の1学科制です。「情報科学」の基礎力とともに、さらに情報の専門および融合分野として重要な「情報科学系」「メディア文化系」「環境情報系」「心理情報系」の4つの専門系科目群の中から、自分の興味や関心にそって、複合的に学習します。文系・理系を超えたカリキュラムで、以下の能力を習得します。

ICTの先端技術と専門知識をさまざまな分野の問題解決に活用できる能力

人間の営みを人文・社会科学的な見方で捉える能力

情報科学的な見方で考える能力

他者と有効かつ円滑にコミュニケーションと協業ができる能力

総合情報学部ホームページより

機械工学科教員一覧(五十音順)

教員名	職名	専門分野	備考
井内 徹	教授	計測工学、放射測温の研究、光計測技術の研究	
石川 圭介	教授	ソフトなシステムのための素材開発、ソフトロボットのための新素材開発、材料の機能性発現機構とマイクロ構造	機能ロボティクス学科から
大久保俊文	教授	ファイル記憶、高密度小型光メモリの開発、高密度磁気記録、走査型プローブ顕微鏡のメモリ応用	
川中 洋一	講師	制御工学、エアシリンダの位置および力制御に関する研究	
神田 雄一	教授	生産システム工学、機械加工、生産システムの高度化、機械加工のインテリジジェント化	本学機械工学科出身
小林 良二	講師	計測工学、細管気体粘度計の研究、流体諸量の測定	
根市 勉	講師	生産工学、トライボロジー、精密加工用電鋳砥石に関する研究	本学機械工学科出身
原 秀介	教授	流体工学、熱流体工学、非定常流中の物体に作用する流体力に対する流れの加速度の影響、ナノポーラスの熱流体力学	本学機械工学科出身
本多 満男	教授	物理学、分子の電子状態を調べることによる化学反応課程の機構の推定、計算物理	
松元 明弘	教授	ロボット工学、自律分散型ロボットシステム、ロボット技術を応用したヒューマンサポート・マイクロ組立	機能ロボティクス学科から
物部 秀二	准教授	精密プローブ加工、超高分解能光計測、高分解能・高 S/N 光プローブの加工法、光プローブを用いた nm オーダのイメージング	
森本 久雄	准教授	ソフトマター科学、複雑流体、非線形科学、ナノ・マイクロスケール材料の自己組織化現象とその応用に関する研究	本学機械工学科出身
山川 聡子	准教授	ロボット制御、ロボットや非線形系の制御、人の特性を考慮したシステム制御	機能ロボティクス学科から
山田 和明	講師	人工知能、マルチロボットシステムにおける強調行動獲得に関する研究	機能ロボティクス学科から
吉野 隆	准教授	計画数理・応用数理、弾性体の変型・破壊をバネブロック系で近似する手法の開発	環境建設学科から
吉本 武史	教授	エルゴード理論、作用素理論、Banach 空間におけるエルゴード諸定理(極限定理)、作用素のスペクトル解析	電気電子工学科から
和田 昇	教授	能材料学・物性物理学、ラマン錯乱、X線回析などを用いたカーボンナノチューブ、半導体、ゼオライトの物性と応用研究、燃料電池の開発	学科主任

なお、旧機械工学科に所属していた吉田 善一教授(理工学部長)、望月 修教授、前川 透教授は新設された「生体医工学科」の所属となりました

新生機械工学科

和田先生

現代社会は、グローバル化にともなう経済的な構造変化により複雑化し、いかに未来を担う若者の教育を行うかが重要な課題になっています。これまで機械工学科では、まず学生は数学、物理などの基礎を因め、“ものづくり”に必要ないわゆる4大力学などの基幹教科をスパイラル的に教育するという方針でカリキュラムを構成してきました。もちろん、製図、CAD/CAM、インターンシップなども経験させ、実践的な教育も同時に行ってきました。そのような中、近年、機械工学科に入学してくる学生は、少子化、理科離れ、ゆとり教育などの環境下で育った世代で、学力、勉強意欲にも個人により大きな幅があります。実際、従来の教育方法では落ちこぼれる学生が目につくようになってきました。教育する側は、学力差の大きい学生たちのどこに焦点を当てどのように教育を行うか、再検討を迫られています。

私は東洋大学に奉職する前に、米国のColorado School of Mines という州立大学で5年ほど教鞭をとっておりました。そこでは学生は本当によく勉強をします。しかし、必死に頑張っても実際に卒業できるのは入学者の6割程度で、しかもその半分は留年をしての卒業です。そこでの教育方針は、卒業する学生のレベルを一定以上に保つということでした。アメリカの大学の教育者は、安易な

お情け主義は学生を墮落、没落させるのみならず、大学の評価を下げる要因になると心得ているのです。

今年、機械工学科では4年生の中で卒業研究着手資格を得ることができなかった学生が4割も出ました。これは以前よりも学力不足の学生を多く入学させたこと、また、“ゆとり教育”でハングリー精神が養われなかった学生が多くいるという結果と考えられます。(または、我々教員が質を確保するためにしっかりと教育をしているという証明?)

いかに落伍者の数を最少にとどめ“質のよい”卒業生を世に送るかが我々教員の当面の課題であると思います。そのためには、入試で入学者を厳選し、入学後は懇切丁寧でわかりやすい教育をし、基礎的な学力と応用力を持った、そして、人間力も身につけた人材を育てることが重要と思っています。伝統ある機械工学科の名をおとしめないよう教員一同奮起する所存でございますので、同窓生の皆様のご支援をどうかよろしくお願い致します。



学科横断型教育プログラム(副専攻)について

理工学部では、所属する学科のカリキュラムを軸に副専攻となる「学科横断型教育プログラム」を採用しています。これは、自分の所属する学科の学習を重点的に学ぶと同時に、それぞれの関心に応じて、より融合的で広がりのある学習を可能にするためです。

新たな発見や成果は、複数の学問分野が結びつくことで生まれるとも言われる現在。東洋大学の特徴的な教育プログラムである「バイオ・ナノサイエンス融合コース」「ロボティクスコース」「地域学コース」の3コースを設置しています



理工学部近況

平成 20 年度 卒業式

平成 20 年度卒業式・学位授与式が、平成 20 年 3 月 23 日 10 時より北の丸公園の日本武道館で大学全体の式として行われました。卒業生は、全学で 5,717 名、工学部 825 名、機械工学科 113 名（内女性 0 名）に卒業証書が授与されました。また、大学院は工学研究科前期課程（旧修士課程に相当）67 名、後期課程（旧博士課程に相当）8 名が修了し、機能システム専攻 20 名の修士、4 名の博士（工学）が誕生しました。

午後 3 時から、川越キャンパスに工学部卒業生は集合し、学科別に卒業証書授与式が行われました。機械工学科では、研究室毎に

指導の先生から直接卒業証書と JABEE 修了証を手渡され、卒業を実感し、社会に出る心構えを新たにした学生が多かったようです。

その後、優秀賞の発表はあり、日本機械学会畠山賞が繋 孝一君に学科主任の大久保教授から授与された後、工学部育成会の優秀賞が機械工学科同窓会太田会長から鈴木 政史君に授与されました。校友会奨励賞は横田 純君に白山キャンパスで授与されました。

新学部卒業生の進路先は、企業 100 名、公務員 2 名、大学院進学 7 名、未定 4 名、また大学院機能システム専攻は、企業 17 名、不明 3 名となりました。



新設 2 学部の開学式が行われました

4 月 18 日（土）午前 10 時 30 分より、川越キャンパス第一屋内実技場にて、2009 年 4 月に開設した理工学部・総合情報学部の開学式を挙行了しました。

新理事長に就任した長島忠美理事長の挨拶、吉田善一理工学部長と大場善次郎総合情報学部長がそれぞれの、学部の紹介を行ない、来賓の川越市長、鶴ヶ島市長からは地域では大きな期待を持っているとの挨拶があり、熊井育成会会長からも祝辞が述べられました。



「東洋大学産学協同教育センター」を設立

川越キャンパス内に、東洋大学産学協同教育センター（Center for Practical Education in partnership with industry：略称 PEC）を平成 21 年 4 月に設立しました。

当センターは、今春開学した理工学部・総合情報学部と、埼玉地域の地元企業ならびに地方公共団体、公的機関等が協力して設立した産学連携した組織です。

大学と企業が連携する「実践的教育プログラム」で、ものづくり現場のニーズに即した

次世代の学生・技術者の育成を目的とし、企業人、教員、学生とが相互に交流しながら学び合う場を提供するものです。

具体的な事業としては、企業を対象とする、技術者・経営者向けの「技術者教育用プログラム」、学生を対象とする長期就業体験実習や、共同研究・開発を通じた自律的研修などの「インターンシップ・プログラム」を講座として開講する予定です。詳細については電話 049-239-1646 にお問い合わせください。

「学生ホール・食堂棟」が完成

平成 20 年 2 月から建築中だった学生ホール食堂棟が、12 月 1 日（月）よりオープンしました。建物は地上 3 階建の新棟は、1 階に食堂ホール、2 階に学生ホールと売店、3 階には学生団体の部屋を設置しています。食堂ホール、学生ホールともにこれまでに比べて面積が広くなり、座席数も増えました。食堂ホールの南側は全面ガラス張り。2 階まで吹き抜けになっていてとても明るい雰囲気

空間となっています。営業は、「東洋食品」から「わかな」に変更となり、味も多少良くなったようです。なお、厚生棟の食堂は、大学生協が営業を引き受けカフェテリア方式での食堂となっています。



新7号館の建築始まる

総合情報学部が新設されたことにより新校舎の建築が始まりました。場所は 4 号館と土木建築実験棟の間の芝生広場となっている場所です。総合情報学部棟（3 階建、総床面積 2 0 0 0 m²）理工学部棟（5 階建、総床面積

2 0 0 0 m²）両棟を渡り廊下で結び、間をオープンスペースとして大型スクリーンを設置する予定です。

竣工は平成 22 年 2 月の予定です。

【機械工学科教員消息】

退職

加藤洋一教授 平成 21 年 3 月定年により退職されました。

小林康男講師 平成 21 年 3 月早期退職制度の定年により退職されました。

OB だより

3期生(昭和42年3月卒)の同期会

4月26日(日)、27日(月)の両日、川越で第三期卒業生同期会が開かれました。第一日目は川越東武ホテルで、第二日目は川越キャンパスで発展した校舎の見学を目的に計画致しました。

同期の卒業生137人中、住所の分かっている95人に往復葉書を出し、返信は66通でした。

ご遺族からの返信が3通あり、物故者は9名になってしまいました。ご冥福をお祈り致します。

参加者は第一日目が18名、第二日目は12名、両日参加者は9名でした、二日間での合計参加者は30名ですが実質21名の集まりでした。参加者はほとんどが関東近辺の人でしたが、鹿児島県、山口県、静岡県から遠路、駆けつけて頂いた人もおり、お陰様で会が盛り上がりました。

川越東武ホテルでの第一日目は、17時半から始まり各人の近況報告、当時(昭和42年頃)の川越校舎の航空写真などをプロジェクターで映しながら、学生時代の昔話に時を忘れ、楽しい一時を過ごしました。当日7名が宿泊し、二次会で夜遅くまで、懐かしい大学時代の思い出話に花を咲かせました。早く到着し、久しぶりの、今テレビで話題の川越の町を散策し懐かしさに浸った人もいたようです。

次の27日には、連続して参加した9名の他に、3名の人に加わり12人が集まりました。11時にロータリー前集合でしたが、学内の大きな変貌ぶりに集合場所が分からなく、とまどった参加者もいたようです。記念撮影後、昼食は学食で学生時代を思い出して在校生と同じ食事を楽しみました。昼食後、機械製図室で行う『機械の設計と製図』という授業に、学生に戻って出席させてもらい、我々卒業生のなかから2名が、設計のことに、授業の前に話をさせてもらいました。設計に関する長年の経験談や大学での勉強の大切さ、物を開発するときの問題点、など熱弁をふるい、後輩達(2年生)は、先輩の話を静かに聞いていました。その後、新しくなった川越校舎(図書館、メディアセンター)や卒業当時そのままの建物(自動車部、MEC)などを見学し、次回同期会の相談をして散会しました。

参加者は少なかったのですが、懐かしい川越で開催出来たこと、旧交を暖めると共に発展した母校を見学出来たこと、若い後輩との交流が持てたこと、は有意義な集いであったと考えています。

次回の同期会には、たくさんの方々のご参加を期待します!

文 3期同窓会幹事 小林康男



5期生(昭和44年3月卒)の同期会

卒業して40年ぶりに再会した五期生の同窓会が、平成21年3月7日(日)に東京のアルカディア市ヶ谷で開催されました。

開催のきっかけは都内近郊に居る仲間が、昨年忘年会を開催し、野球部や駅伝の優勝で母校が注目を集めているので仲間に声かけをして集ってみようと、出席者が盛り上がり、5期同窓会開催有志一同が発起人となり昨年より機械工学科の非常勤講師となった大浦昌久氏が代表幹事に選ばれ開催の準備をスタートしました。

卒業生163名の名簿を整理する事から始め、その時点で60名位の方の住所が把握出来ず手分けをして分かる範囲で補完しましたが、最終的には110名に発送致しました。

結果としては参加した方々は16名と少ない人数ではありましたが、月日が流れ仲間がどのような風貌に変わっているのかが楽しみでした。

年齢からすると60歳の定年を迎えている者が殆どでは無いかとの予想に反し、自営・再就職等の現役で頑張っている方が大半です。皆さんバイタリティーに溢れていました。

会は伏見信幸君の名司会でスムーズに進行され、代表幹事の開催経過の説明、月岡正行の乾杯でスタートしました。しばらく歓談後、自己紹介をして現状報告を行い、皆さん現役の時は夫々素晴らしい働きぶりが話されました。5期紅一点の小島恒子さんも出席され、現在は特許事務所で現役として頑張っています。

しばらくして、機械工学科教授の神田雄一氏から現状の工学部と本年度より理工学部へ代わる事の状況説明と変貌した校舎や学内の写真などパワーポイントを使用する報告がなされ、途中質問も交え熱心に聞き入りました。

時間の経過は早いもので、予定の2時間が経ち最後に一番遠い秋田から参加された山本弘視氏の閉会の挨拶と締めを行ないました。

閉会後は2次会はカラオケ・3次会と夫々で楽しいひと時を過ごしました。

追伸…幹事の反省と同期の皆さんへのお願ひ事は、名簿整備の協力と情報提供を是非願ひたいことです。次回は5年後を目指し開催したいと思っていますので、多数の参加を願ひします。

文 大浦昌久



近況報告

機械工学科卒業生の皆様、初めての方も、初めてではない方も、こんにちは。

機械工学科を平成8年に卒業し、博士前期課程を平成11年に修了した、屋良学と申します。

機械工学とは関係のない分野に進んだ卒業生の1人として、白羽の矢が立ちましたので、どうぞ宜しくお願い致します。

25歳で大学院を出てから、私の進んだ道は『役者』という業種です。

大学時代に文化団体連合の放送技術研究会というサークルに所属してはいたものの、演技というものは全くの未経験、その上かなり重要であろう業界との繋がりも皆無のまま、一念発起し、ただの素人が役者という未知の世界に、右も左も分からぬゼロの状態のまま飛び込みました。

振り返ってみると、なんて無謀な挑戦だろうと、我ながら冷や汗ものです。ですが、「覚悟だけは誰にも負けない」と、根拠の無い自信だけがありました。

文字通り『体当たり』の日々を過ごしました。

養成所に通うでもなく、劇団に入るでもない異色のスタートでしたが、運が良く、初舞台で主演を任されるなど、1年目に3本の舞台に出演することができました。

有難いことに、出演する舞台の規模も徐々に大きくなっていきましたが、それだけが私の望んでいたことではありませんでした。

・30歳までに、映画とドラマに出演する

・35歳までに、映画でポスターに名前が載るような大役を務める

役者を始めるにあたり、このノルマを自分に課していました。

「クリアできなければ、才能が無いのだから諦めよう」と心に決めていました。本音を言えば、続けたいからこそ、達成するために必死でした。

ノルマを課すことで、自分を鼓舞していました。

現在、役者を続けていられるのは、決して自分1人の力ではありません。大学時代の友人、先輩、後輩はじめ、様々な人に支えてもらっているからです。

私にはまだまだ目標があります。

「屋良学は自分と同じ東洋の機械出身だ」と言ってもらえるような役者になりますので機械工学科卒業生の皆様、どうか応援のほど宜しくお願い致します。

屋良学 (ヤラマナブ) プロフィール
沖縄県出身。1973年生まれ。

1999年、舞台で役者デビュー。
新劇からコメディまで様々なジャンルの舞台に出演する。
現在は堤幸彦劇団のメンバーとして、舞台・映画・ドラマ・CM・PVなど多方面で活動中。
出演情報等は公式ブログにて。
<http://yaramanabu.blog.players.tv>



【編集後記】

本号は理工学部となった工学部についての説明を中心としました。OB 便りには、異色の卒業生の屋良さんの公演を見て、原稿を依頼したところ快く寄稿してもらいました。今後有名になって大学の看板俳優?となることを期待しましょう。

～同窓会連絡先～

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
東洋大学工学部連合育成会 気付

機械工学科同窓会事務局

電話・FAX:049-239-1679
E-mail:ikuseikai@eng.toyo.ac.jp

担当 清澤文彌太 小林康男

この会報は、原則として終身会費を納めた卒業生にお送りしています。
会費が未納の方で会報を受け取った方は、終身会費5,000円を下記の郵便振替口座にて納入をお願いいたします。

郵便振替口座 00150-2-752854 東洋大学工学部機械工学科同窓会